

(2006年10月12日)

○岡部さんは、長岡鉄工業では「岡ちゃん」として、頼られる存在になっています。推されて「長岡鉄工業地協同組合」(昭和46年設立)の理事長をつとめます。さらに機関紙「てつこうの光」(年間10回発行)の編集長です。この機関紙は、4ページのようですが、長岡鉄工業の動きが鮮明にわかります。8月1日号には傘下組員127社



—シリーズ第9回—

企業PROFILE



住所 〒940-2022
長岡市鉄工町
2-3-54

資本金
5000万円

従業員数
40人

【事業の内容】

円筒研削盤、内面研削盤を中心とした高精度、高能率工作機械並びに特殊加工専用機の製造販売。超小型から中型、大型機種まで幅広く対応。

株式会社丸栄機械製作所

【5】 業界発展と後進育成のために

の業況アンケート調査が載っています。民間の業界団体が、このようなレベルの高い機関紙を発行し続けるのは、なかなか苦勞が多い

○長岡商工会議所での役

○「あさひ研究会」での活躍もあります。この研究会の前身は「(株)あさひ総研」でした。もともとは、新潟県工部(当時)が異業種の連携を試みた組織、「異業種交流プラザ」です。

その目的は、ひとつの技術をひとつの産業に活用するだけでなく、業種を越えて使えないか。多面的に活用すること

す。「てつこうの光」が毎月発行される背景には、編集長である岡部さんの力が大きいのです。

○「あさひ研究会」での活躍もあります。この研究会の前身は「(株)あさひ総研」でした。もともとは、新潟県工部(当時)が異業種の連携を試みた組織、「異業種交流プラザ」です。

その目的は、ひとつの技術をひとつの産業に活用するだけでなく、業種を越えて使えないか。多面的に活用すること

その目的は、ひとつの技術をひとつの産業に活用するだけでなく、業種を越えて使えないか。多面的に活用すること



社長と専務

よりベンチャー企業の育成を目指さないか、というものでした。たとえば、鉄工業界の技術を織維産業に、織維業界の技術を機械産業に、機械産業に、本県の産業活性化に役立つとの考えがあった

「インタビューを終えて」 業歴の古い会社ですが、常に研究心が満ちており、現状にとどまることを知りません。しかも人を育てることがうまい。3代目社長になる岡部恒夫さんが専務として控えています。だから、技術の伝承も確です。新しく踏み込んだ大型研削盤の世界に夢が広がります。

「文」長岡新聞社編集顧問 新潟県経済雇用問題 研究所理事長・松田富治

《シリーズ全5回 毎週木曜日連載》